

子ども一人ひとりの言語力を高める教育活動
～小規模校のメリットを生かし、デメリットを解消する工夫～

1 本校の研究について

本校では「学校でも、地域でもきらきら輝き塩田っ子の育成～自主・自律～」を教育目標に掲げ、めざす子ども像「㊦んけんに学ぶ子」「㊧もいやりの心を磨く子」「㊨くましく生き抜く子」に向けて、学校運営及び教育活動を行っている。

そのような中、これまで本校では、「主体的に考え、表現する資質能力」に着目して、実践研究を行ってきた。この取組をとおして、自分の考えを仲間に説明したり、仲間と自分の考えを聞き比べる姿が見られるようになった。また、仲間の考えにふれることをとおして、学び合うことに対する意欲的な姿が見られるようになってきた。一方、情報を正しく読み取ったり、目的や意図に合わせて正確に表現する力が依然として弱いことや、自分の考えを進んで伝えようとする意欲、学んだことを生かしてより高度な課題を追究しようとする態度には課題が見られていた。

そこで、本年度は、「子ども一人ひとりの言語力を高める教育活動」を行い、「主体的に考え、表現する資質能力」を育成することをとおして、教育目標の実現に迫ることとした。ここでいう「言語力」とは、「言葉を用いて考え、考えた内容を正確に伝える資質能力」のことである。全教育活動の中で、子どもが主体的に学ぶ向かうために課題を設定し、必要な情報を選択しながら考え、目的や意図に合わせて考えを正確に表現する実践を積み重ねることで、子ども一人ひとりの言語力を高めることができるのではないかと考えたのである。なお、本校は「集団活動の実施に制約があること」「多様な考えにふれる機会が少ないこと」等、極小規模校ならではのデメリットも抱えている。これらを補いつつ、「さまざまな場面で意見や感想を発表できる機会を得やすい」「一人ひとりがリーダーを努める機会を得やすい」「異学年との関わり合いが多い」等のメリットを最大限に生かした教育活動の工夫をしていくことが、子ども一人ひとりの言語力をより確かに高めることにつながると考えている。これらのことから、本年度の研究テーマを上記のとおりとし、実践研究を重ねていくこととした。

2 取組の視点

全教育活動で取り組む中でも、特に「全校体制」「小小連携」「地域連携」といった視点を大切にしたい。具体的には次のとおりである。

①全校体制で取り組む「言語力を高める教育活動」

同学年での集団活動に制約はあるが、異学年との関わり合いが多いというメリットに着目し、全校体制での取組の充実を図ることとした。全校が同じ場で学ぶことで、上学年の子どもは、下学年の手本になるという「自覚」をもって取り組み、下学年の子どもは、上学年の姿に「あこがれ」を抱く。このような好循環の中で「言語力」を高めることをねらったのである。

②他の小学校の連携・協働して取り組む「言語力を高める教育活動」

同学年・同年代での協働的な学びを確保し、「言語力」を高めるため、近隣の東荷小学校をはじめ、同じやまと学園内の小学校等との直接交流学习や遠隔交流学习を行うこととした。日頃とは違う集団と関わり合う中で、相手意識や目的意識をもって考えを交流し「言語力」を高めることをねらったのである。

③地域と連携・協働して取り組む「言語力を高める教育活動」

さまざまな場面で意見や感想を発表できる機会を得やすいというを生かすとともに、多様な人との関わり合いの中で、「言語力」を高めることができるよう、地域連携活動の中で、子ども一人ひとりの表現機会を保障することとした。

3 取組の実際

(1) 全校体制で取り組む「言語力を高める教育活動」

【チャレンジタイム塩田塾での取組】

昨年度まで朝の学習時間「チャレンジタイム」は各教室で行っていた。しかし、本年度からは、「塩田塾」という名称を付し、オープンスペースに全校が一堂に会して行うようにした。このようにすることで、下学年の子どもは、上学年の真剣に学ぶ姿を見て、上学年の子どもは、下学年の手本になろうと背筋を正して学びに向かおうとする姿が見られるようになった。また、管理職をはじめ、全学級担任、養護教諭までもが加わることで、より個に応じた指導・支援が可能になった。

チャレンジタイム塩田塾では週3回、読書や、国語・算数の学習を行う。本年度は、言語力を高める活動として「百マス作文の推敲」を加えた。具体的には、①学級担任によって示されたテーマや条件に沿って事前に作文を書いてくる。②チャレンジタイム塩田塾で、互いの作文を読み合い、よいところを赤鉛筆で、もっとこうしたらよいところを青鉛筆で書き入れ、助言し合う、といったものである。日々の授業の中で作文することはあっても、それを推敲するという機会はあまりない。また、自分で書いた文章を批判的に見直すという行為は、小学生にとって容易ではない。しかし、このように互いの作文を推敲し、「正しく書けているか」「分かりやすいか」「条件に沿っているか」等、助言し合う活動を行うことは、互いの推敲能力を高めることにつながった。



チャレンジタイム塩田塾



作文にコメントを記入



上学年からの助言

(2) 他の小学校と連携・協働して取り組む「言語力を高める教育活動」

【やまと学園小学校との直接交流学习・遠隔交流学习】

①直接交流学习

近隣の東荷小学校を中心として、同じやまと学園内の小学校との交流学习を積極的に行い、延べ40回を超えた。

1・2年生の国語科・生活科「おもちゃの作り方」では、初めて説明を聞く東荷小学校の友達にもよく分かるようにと



おもちゃの作り方の説明

の目的意識をもち、順序を表す言葉の使い方、説明の順序、図や写真の使い方を工夫して、詳しく説明することができた。

5・6年生の総合的な学習の時間「伊藤公サミット」では、それぞれの学校で話し合っ て見付けた伊藤公の生き方のよさについて、フリップカードを使ったり寸劇を交えたりして発表し合い、考えを深めることができた。



伊藤公サミットの話合い

②遠隔交流学习

直接交流学习を補う目的で、ICTを用いて、教室同士や子ども同士をweb会議アプリZoomや授業支援アプリMetamojiで繋ぎ、遠隔交流学习を行った。



塩田小学校側の様子（後方画面に東荷小）



東荷小学校側の様子（前方画面に塩田小）

実践を進める中で遠隔交流学习の話合いでは、直接交流学习以上に、子ども自身に話し合いを進める力が必要であることが分かってきた。そこで、子どもたちとともにめざす話し合いのポイント（自ら発言する、目的や進め方を確認する、反応を返す、相手から意見を引き出す、相手を気遣う）を見付け、それを生かしながら学習を進めた。

【美祢市立秋吉小学校との遠隔交流学习】

オンライン太鼓交流会の交流校でもある美祢市立秋吉小学校との交流学习の機会を得て、5・6年生が国語科や総合的な学習の時間を生かして、「互いの伝統である太鼓のよさを広げ、つないでいくために」等の内容で話し合い



グループ別の話合い



学級全体での話合い

活動を行うことができた。子どもたちは、これまでの遠隔交流学习の経験を生かすだけでなく、秋吉小学校との話し合いの中で「ハンドサインを使って、グループ内での意見を把握する」「相手の意見を認め、価値付けて、さらに意見を引き出す」等の話し合いにおける新たな工夫を生み出しながら、考えを深め合うことができた。



オンライン太鼓交流会

（3）地域と連携・協働して取り組む「言語力を高める教育活動」

【めざす子ども像、育成したい資質能力の共有】

家庭や地域と連携・協働して教育活動を推進していくためには、「言語力を高めること」をはじめとし、めざす子ども像や、育成したい資質能力について、共有しておく必要がある。そこで、子ども、保護者、地域住民、教職員が一緒になって行う「し



おたミーティング（熟議）」を行い、「自分から進んでできる子」「自分の考えを言える

子」等、9つの姿を共有することができた。このことは、その後の学校運営協議会の熟議の中で、めざす姿を実現するためには、地域連携活動の中で「子どもたちの表現機会を保障すること」「子どもたちの自主的な動き出しを待つこと」等が必要であることを共通理解することにつながった。

【地域連携活動の中での表現機会の保障】

学校運営協議会で確認された子どもへの関わり方は、地域連携の諸活動の中で実行に移された。老人クラブの「いきいきサロン」の中では、学習発表の機会を保障していただいたり、「そばづくりプロジェクト」や「正月飾りづくり」の活動の中では、子どもたち一人ひとりに感想を述べる時間を確保していただいたり、全面的な協力の中で、子ども一人ひとりの言語力を高める教育活動を行うことができた。

年度末の「子どもしおたミーティング」では、「自分から進んで感想や意見が言えるようになった」「自分から地域の人に話しかけるようになった」等、子どもたち自身が自分たちの頑張りや成長について振り返ることができた。



いきいきサロンでの発表



そば刈りでの感想

4 研究を振り返って

本研究を取組の3つの視点から振り返ってみる。

全校体制で取り組む「言語力を高める教育活動」においては、子ども全員を全教職員で指導・支援することで、主体的に学習に取り組む態度や表現力の高まりを生み出すことができた。今後、さらに小規模校のメリットを生かして、個別最適な学びの保障を行っていききたい。

他の小学校と連携・協働して取り組む「言語力を高める教育活動」については、日頃とは違う集団との交流学习を仕組むことで、目的意識や相手意識をもって伝え合い、話し合う力の高まりをみることができた。今後、交流学习を持続可能なものへと工夫・改善し、拡充していくことや、交流学习で学んだことを日々の授業の中に生かしていくことが課題である。

地域と連携・協働して取り組む「言語力を高める教育活動」については、めざす姿やそれを実現するための関わり方を共有することで、より高い教育効果を生み出すことができた。今後、さらに子どもたちを前面に出した地域連携活動を行うとともに、子どもたちの頑張りや成長についての地域の声を集め、子どもたちへフィードバックし、好循環を生み出すことが一層の充実につながるだろう。

これらの成果と課題、そして得られた知見をもとに、小規模校の強みを最大限に生かして、子ども一人ひとりの言語力を高める教育活動の工夫・改善に努めていきたい。